

熊本地域医療センターが 担う役割について

令和4年2月26日

一般社団法人熊本市医師会 熊本地域医療センター
院長 杉田 裕樹

現 状

・理念

かかってよかった。紹介してよかった。働いてよかった。
そんな病院をめざします。

・基本方針

- ①紹介型外来
- ②共同利用・開放型病院
- ③高度医療の提供
- ④救急医療体制への参画
- ⑤教育・研修による人材育成

・標榜診療科目

内科、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、
糖尿病代謝内科、外科、消化器外科、小児外科、小児科、
放射線科、麻酔科、病理診断科、皮膚科、アレルギー科

- 病床数:227床
- 入院基本料:

HCU入院医療管理料1	(4床)	高度急性期
急性期一般入院料1	(152床)	急性期機能
小児入院医療管理料3	(29床)	急性期機能
地域包括ケア病棟入院料2	(28床)	回復期機能
緩和ケア病棟入院料2	(14床)	慢性期機能
- 緊急入院率:51.2% (R2年度)
- 職員数:408名 (R4年2月1日:非常勤・嘱託・臨時・パート含)

医師:45名 (うち研修医1名)	看護職員:215名
コメディカル:77名	事務職員他:71名

1 現状と課題 [3]

- ・実施政策医療

 - 地域医療支援病院

 - 熊本県指定がん診療連携拠点病院

 - 心筋梗塞等の心血管疾患急性期拠点病院

 - 小児救急医療拠点病院

 - 熊本県予防接種センター

 - 熊本県アレルギー疾患医療連携病院の施設認定

熊本市委託の休日夜間急患センター事業を含めた救急医療（一次救急・二次救急）にて365日患者受入れを行っている。

- ・他医療機関との連携

当院は、医師会立の病院として開設当初（昭和56年）より病診・病病連携により各医療機関との連携は十分に構築できている。

1 現状と課題 [4]

項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度
入院患者数 (人)	5,983	5,644	4,697
入院患者延数 (人)	62,884	58,834	51,370 (コロナ患者受入病床確保で入院患者は減少)
外来患者数 (人) ()は休日夜間患者数再掲	65,051 (29,232)	63,793 (27,851)	42,594 (10,099)
病床稼働率 (%)	75.9	70.8	62.0
平均在院日数 (日)	9.2	9.1	9.8
手術実施数 (人)	823	804	742
救急搬送数 (人)	1,930	1,890	1,152
紹介率 (%)	95.2	96.4	94.9
逆紹介率 (%)	139.7	134.4	111.5

課題

- ・熊本市内には熊大病院をはじめ複数の公的病院が存在することから機能の一部重複がみられる。
- ・厚労省医政発0117第4号(令和2年1月17日)において「類似かつ近接施設がある」との指摘を受けており、対応を迫られている。この中で「がん」、「救急医療」、「小児医療」については診療実績が認められている。

※●は指摘項目に該当

診療実績が特に少ない									類似かつ近接施設がある							
がん	心血管疾患	心筋梗塞など	脳卒中	救急医療	小児医療	周産期医療	災害医療	へき地医療	研修・派遣機能	がん	心血管疾患	心筋梗塞など	脳卒中	救急医療	小児医療	周産期医療
	●		●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

1 現状と課題（分析） [1]

【外来】将来推計患者数（全年齢区分）

熊本市における疾病別将来推計外来患者数

	1日当たり外来患者数(人)			増加率		増加数	
	(受療率×年齢別人口の推移)			(対2010年度)			
	2010年	2025年	2040年	2025年	2040年	2025年－2010年	2040年－2010年
総数	42,870	46,246	45,693	107.9%	106.6%	3,376	2,824
1 感染症及び寄生虫症	1,460	1,398	1,262	95.7%	86.4%	-62	-198
2 新生物	1,119	1,232	1,227	110.1%	109.7%	113	108
3 内分泌、栄養及び代謝疾患	2,040	2,321	2,343	113.8%	114.9%	281	303
糖尿病(再掲)	1,128	1,300	1,320	115.2%	117.0%	172	192
4 精神および行動の障害	1,426	1,443	1,376	101.2%	96.5%	16	-51
5 神経系の疾患	865	1,029	1,072	118.9%	123.8%	164	206
6 眼及び付属器の疾患	2,061	2,236	2,191	108.5%	106.3%	175	129
7 循環器系の疾患	5,028	6,284	6,784	125.0%	134.9%	1,256	1,755
心疾患(高血圧性のものを除く)(再掲)	620	829	940	133.9%	151.8%	210	321
脳血管疾患(再掲)	302	410	471	135.6%	156.1%	108	169
8 呼吸器系の疾患	3,766	3,514	3,195	93.3%	84.8%	-253	-571
肺炎(再掲)	0	0	0			0	0
9 消化器系の疾患	7,531	7,768	7,435	103.1%	98.7%	237	-96
10 皮膚及び皮下組織の疾患	2,485	2,392	2,243	96.2%	90.3%	-93	-242
11 筋骨格系及び結合組織の疾患	5,165	6,091	6,230	117.9%	120.6%	926	1,064
12 腎尿路生殖器系の疾患	1,523	1,724	1,729	113.2%	113.5%	202	206
13 損傷、中毒及びその他の外因の影響	2,574	2,602	2,436	101.1%	94.7%	28	-137
骨折(再掲)	528	595	597	112.6%	113.1%	67	69

1 現状と課題（分析） [2]

【入院】将来推計患者数（全年齢区分）

熊本市における疾病別将来推計入院患者数

	1日当たり入院患者数(人)			増加率		増加数	
	(受療率×年齢別人口の推移)			(対2010年度)			
	2010年	2025年	2040年	2025年	2040年	2025年－2010年	2040年－2010年
総数	9,770	12,721	14,378	130.2%	147.2%	2,951	4,608
1 感染症及び寄生虫症	177	255	298	143.8%	167.9%	78	120
2 新生物	810	1,016	1,098	125.4%	135.5%	206	287
3 内分泌、栄養及び代謝疾患	240	329	393	137.1%	163.3%	89	152
糖尿病(再掲)	145	209	243	144.8%	168.2%	65	99
4 精神および行動の障害	2,513	2,823	2,872	112.3%	114.3%	310	359
5 神経系の疾患	1,145	1,515	1,704	132.2%	148.7%	369	558
6 眼及び付属器の疾患	0	0	0			0	0
7 循環器系の疾患	1,590	2,292	2,770	144.1%	174.2%	702	1,179
心疾患(高血圧性のものを除く)(再掲)	391	606	767	155.2%	196.4%	216	377
脳血管疾患(再掲)	1,034	1,487	1,773	143.8%	171.4%	453	739
8 呼吸器系の疾患	526	828	1,063	157.6%	202.3%	303	537
肺炎(再掲)	163	265	345	162.4%	211.4%	102	182
9 消化器系の疾患	343	448	507	130.6%	147.7%	105	164
10 皮膚及び皮下組織の疾患	57	87	104	154.2%	183.8%	31	47
11 筋骨格系及び結合組織の疾患	567	744	824	131.2%	145.4%	177	257
12 腎尿路生殖器系の疾患	346	513	618	148.4%	178.7%	167	272
13 損傷、中毒及びその他の外因の影響	1,022	1,425	1,685	139.4%	164.8%	402	662
骨折(再掲)	776	1,099	1,316	141.7%	169.7%	324	541

【熊本市における外部環境および医療需要量】

- 人口増減・・・熊本市の人口減少は全国平均と比較して緩やかに進む。
2010年対比で2040年には10.3%の減少となることが見込まれている。
- 高齢化・・・熊本市の高齢化は全国平均と比較して緩やかに進むが、2040年には高齢化率が33.9%と見込まれる。
- 患者流入・・・熊本市以外からの患者流入が1日数千人(2,700名)程度いる。
- 医療需要量
＜外来＞
現在増加傾向にあるが、2030年頃をピークに減少に転じることが見込まれている。疾患別においては「新生物」及び「内分泌、栄養及び代謝疾患」、「循環器系」については増加することが見込まれている。

<入院>

熊本市の将来推計患者数は、今後も引き続き増加傾向となることが見込まれている。疾患別においては、多くの疾病において患者数が増加するが、特に「新生物」及び「内分泌、栄養及び代謝疾患」、「循環器系」、「呼吸器系」、「消化器系」については増加することが見込まれる。

<小児科>

熊本市の15歳未満の将来推計患者数は外来・入院とも現在減少傾向にあり、2040年には2010年に比べ1日当たりの患者数が3割減少することが見込まれる。

以上より医療需要量は外来は2030年頃をピークに減少、入院は今後も引き続き増加傾向となることが見込まれており当院が現在標榜している診療科において消化器外科・内科、糖尿病代謝内科、循環器内科、呼吸器内科の重要性は増し、一方で小児科のニーズが減少していくとの分析結果であった。

【地域において今後も担うべき役割】

- ・熊本市医師会員の後方支援のための急性期病院として今後も急性期医療を提供していく。
- ・共同利用施設として、高度診断機器を活用し迅速な診断を提供。
- ・紹介医自身が紹介した患者の執刀医としての手術室利用。
- ・院内の地域包括ケア病棟を活用し、医師会在宅ケアセンターとの連携をさらに密にし、熊本市医師会員の後方支援としての機能を担う。
- ・現在、地域医療支援病院、熊本県指定がん診療連携拠点病院、心筋梗塞等の心血管疾患急性期拠点病院、小児救急医療拠点病院（小児科医が24時間診療）、熊本県予防接種センター（ハイリスク者の予防接種、AZワクチン接種センター）、熊本県アレルギー疾患医療連携病院の施設認定等を受けており、引き続き整備充実していく。
- ・構想区域である上益城地域の医療機関に対しても依頼があれば、これまで通り積極的に患者受入を行い急性期の高度な医療を提供していく。

【地域において今後も担うべき役割】

- ・熊本市民はもとより近隣市外住民の安心安全のため、熊本市医師会会員医師、熊本大学病院医師、当院常勤医師等により熊本市委託の休日夜間急患センター(内科・外科・小児科の3科)の役割を果たしていく。当然、外来診療時点で入院治療を要すると判断された患者については速やかに入院対応を行う。

(急患診療時間)

- | | |
|---------|--------------------------------------|
| ・平日、土曜日 | 内科・外科：18:00～23:00
小児科：18:00～翌8:00 |
| ・日曜日、祝日 | 内科・外科：8:00～23:00
小児科：8:00～翌8:00 |

【地域において今後も担うべき役割】

(領域ごとの分析(類似かつ近接施設がある))

・がん:

手術実施数は年間800例前後(うち悪性手術等(主に消化器)を200例以上)実施。また、消化器系および呼吸器系癌の化学療法を実施している(R2年度:2,166回)。上益城を含めた熊本市外住民の診療も多い。診療実績は認められており地域から必要とされている。

肝胆膵手術症例数

	肝臓		胆のう		膵臓	
	良性	悪性	良性	悪性	良性	悪性
H30年度	3	15	170	16	15	26
R元年度	2	21	165	3	15	30
R2年度	1	15	153	8	5	28

【地域において今後も担うべき役割】

(領域ごとの分析(類似かつ近接施設がある))

・心筋梗塞などの心血管疾患:

当院でも心臓カテーテル検査や経皮的冠動脈ステント術等を行ってはいるが、対応が難しい場合は熊本市内の基幹病院(熊大病院や済生会熊本病院など)と連携し対応している。

・脳卒中:

令和3年4月より脳外科医の退職により標榜診療科を取り下げており、急性期疾患については熊本市内の基幹病院(熊大病院や済生会熊本病院など)および近隣の医療機関と連携し対応している。

【地域において今後も担うべき役割】

(領域ごとの分析(類似かつ近接施設がある))

・救急医療、小児医療:

一次・二次救急を365日提供している。病院群輪番制にも参加しており熊本市外からも24時間体制で救急患者の受け入れを行っている。特に小児医療は小児救急拠点病院でもあり、小児科医が24時間診療を行っており、熊本市民はもとより近隣市外住民の安心安全のためにはなくてはならない存在になっている。

- ・平成30年度休日夜間患者数 29,232人(うち小児科 15,552人)
- ・令和元年度休日夜間患者数 27,851人(うち小児科 15,004人)
- ・令和2年度休日夜間患者数 10,099人(うち小児科 5,354人)

※新型コロナウイルス感染症の影響もあり、上記のとおり、令和2年度の休日夜間患者数は前年比-17,752名(63.7%減)であった。

2 今後の方針 [6]

・ 熊本市外の主な患者実績（休日夜間患者数）

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
上益城郡	828	642	186
宇土市	611	595	200
宇城市	527	478	147
合志市	358	293	83
菊池郡	233	209	68
阿蘇郡	50	43	10
玉名市	175	139	30
山鹿市	124	95	30
菊池市	141	105	30

2 今後の方針 [7]

【地域医療支援病院としての新たな責務について】

- ・医師の少ない地域を支援すること。
紹介型外来や共同利用・開放型病院という基本方針に則り、密接な医療連携を実施し、特に休日・夜間における診療体制を支援し、地域のかかりつけ医(会員)の後方支援を行っている。
- ・近接している医療機関と競合している場合は、地域医療構想調整会議における協議に基づき、医療需要に応じ、必要な医療に重点化した医療を提供すること。
当院は、主に急性期医療、救急医療、小児医療を重点分野として医療を提供している。
 - ①急性期医療・・・熊本県指定がん診療連携拠点病院として地域の医療機関と連携して質の高い急性期医療を提供している。
 - ②救急医療、小児医療・・・一次・二次救急を365日提供している。特に小児医療は小児科医が24時間診療を行っている。

2 今後の方針 [8]

【地域医療支援病院としての新たな責務について】

- ・平常時からの準備も含め、新興感染症等がまん延し、又はそのおそれがある状況において感染症医療の提供を行うこと。

新型コロナウイルス感染症に対しては、令和2年発生当初から帰国者・接触者外来を行い、発熱者診療を開始し、令和2年12月臨時の発熱外来棟を設置し、発熱者の対応に当たっている。また、入院病床を最大19床確保し、患者359名の入院を受け入れた(R4.1月末時点)。

今後の新興感染症等に対しても、感染拡大時においては特定の病棟を区画して専用の病床を確保する等、必要な医療体制の構築を機動的に行っていく。

2 今後の方針 [9]

【地域医療支援病院としての新たな責務について】

- ・平常時からの準備も含め、災害時に医療を提供すること。

平成28年熊本地震発生時にはトリアージセンターを病院入口に開設し、診療にあたり、外来受診患者数は202名であった。また熊本市医師会館駐車場内に小児科仮設診療所を8日間(4月17日～4月24日)開設、370名が受診した。東日本大震災発災時や令和2年7月豪雨災害時には、JMAT 1チームを災害地に派遣した。今後も災害発生時には、上記の対応を行っていく。

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【4 機能ごとの病床のあり方 その1】

単位：床

病床機能	2021年(令和3年)	2025年(令和7年) 案
高度急性期	4床	4床
急性期	181床	160床
回復期	28床 (地域包括ケア)	26床 (地域包括ケア)
慢性期	14床 (緩和ケア)	14床 (緩和ケア)
その他		
合計	227床	204床

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【4 機能ごとの病床のあり方 その2】

ダウンサイジングを行うことによって、今後も医療ニーズが見込まれる消化器外科・内科、糖尿病代謝内科、循環器内科、呼吸器内科、小児科(救急)といった機能を重点化し会員への後方支援という役割を引き続き担っていく。

〈高度急性期〉

HCU(4床)の病床稼働率は、H30年度47.2%、R元年度54.3%、R2年度62.2%となっている。

主な病態としては、(消化器術後)が多い。

消化器の手術件数が多いのが当院の特徴であるため、現状の体制を維持していく。

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【4 機能ごとの病床のあり方 その2】

〈急性期〉急性期病床のうち急性期一般入院料1の病床稼働率は、H30年度71.9%、R元年度68.5%、R2年度61.6%（R2年度はコロナ病床を含む）で、小児入院医療管理料3の病床稼働率は、H30年度79.5%、R元年度70.0%、R2年度39.9%であった。小児科については少子化や感染症の減少による入院患者数の減少が予測される。

急性期一般入院料1の稼働率を鑑み若干数の減床を行う。

全体で急性期病床21床（うち小児科15床）を減床する予定。

（稼働率）

	病床稼働率			減床に置き換えた時の病床稼働率		
	急性期一般 +小児入院 (181床)	急性期一般 入院料1 (152床)	小児入院医 療管理料3 (29床)	急性期一般 +小児入院 (160床)	急性期一般 入院料1 (146床)	小児入院医 療管理料4 (14床)
H30年度	73.1	71.9	79.5	82.7	74.9	164.7
R元年度	68.8	68.5	70.0	77.8	71.3	145.2
R2年度	58.1	61.6	39.9	65.7	64.1	82.5

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【4 機能ごとの病床のあり方 その2】

〈回復期〉

地域包括ケア病棟に関しては、現在院内での転棟患者のみで使用。病床稼働率は、H30年度100.5%、R元年度91.0%、R2年度88.2%となっている。

地域包括ケアシステムの担い手である、在宅ケアセンターとの更なる連携を図り、在宅復帰への支援役割を果たしていく。新病院建設にあたり2床減少予定であるが対応は可能。

〈慢性期〉

今後も高齢化が進む中で、診断から看取りまでの一貫した医療を提供している緩和ケア病棟の役割はさらに増していくと考えられ、現状の体制を維持していく予定。病床稼働率は、H30年度70.6%、R元年度61.3%、R2年度60.1%となっている。

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【診療科の見直し】

	現時点 (2021年4月時点)	2025年	理由・方策
維持	・内科、消化器内科、呼吸器内科、 循環器内科、代謝内科、外科、 消化器外科、小児外科、小児科、 放射線科、麻酔科、病理診断科、 皮膚科、アレルギー科、脳神経 内科	維持	—
新設	—	—	—
廃止	—	—	—
変更・統合	—	—	—

3 具体的な計画 (2) 数値目標

	現時点(令和2年度実績)	2025年
①病床稼働率	62.0%	95%
②紹介率	94.9%	95%
③逆紹介率	111.5%	150%

3 具体的な計画

(3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

【取組みと課題】

病床稼働率上昇への取組み

- ・ 病床数の減少
- ・ 医師会立病院としての、より一層の病診連携
- ・ 地域包括ケア病床を活用した在宅医療の後方支援
- ・ 休日夜間急患センター事業の堅持（緊急入院率が高いので、常に入院できるベッドを確保しておく必要がある）
- ・ 診療内容の充実は当然、ハード面でも受診したいと思わせる魅力ある病院づくりに取り組んでいく
- ・ 医療従事者確保については、医師は引き続き熊大医局との連携により確保していく。看護師等のスタッフについては、院内保育所や寄宿舍等の福利厚生を継続し、雇用確保や離職防止に取り組んでいく

3 具体的な計画

(3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

【新病院建設】

- ・昭和56年建設の本館は40年を経過し施設の老朽化は明らかで、更に熊本地震でのダメージも大きく、またハード面での患者サービスも課題があり、かねてより計画していた新病院建設を今年（令和4年）から具体的に進めて行く。

3 具体的な計画

(3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

・新病院の病床体制

入院基本料等	病床機能	現在の病床	新病院病床 (案)
HCU入院医療管理料1	高度急性期	4床	4床
急性期一般入院料1	急性期	152床	146床
小児入院医療管理料3	急性期	29床	
小児入院医療管理料4	急性期		14床
地域包括ケア病棟入院料2	回復期	28床	26床
緩和ケア病棟入院料2	慢性期	14床	14床
計		227床	204床